

及天山南北路、若くは南方亞細亞土耳其國に分布して、彼の獯鬻、獬豸、匈奴、柔然、突厥、黠戛斯、回鶻等の稱を得しは此種族なり。

元來中央亞細亞の歴史は錯雜して、所謂「モンゴリアン」人種移動の徑路等明瞭ならざるもの有り。殊に獯鬻、獬豸は、「モンゴリアン」人種の一種たる、土耳其族たるは確かなるも、其の遷移の沿革詳かならず。されど匈奴の、秦時代に大運動を起し、屢々秦及漢を侵し、且つ中央亞細亞各國を侵略したるは歴史上著名のものなり。

匈奴は、漢の宣帝の代、分れて南北二派と爲り。南匈奴は、微弱振はずして早く漢に歸服し、北匈奴は、勢ひ益々強く、屢々邊境に寇せしも、遂に章帝の破る所と爲りて、其の一部は、遠く裏海の濱に遁れ、餘の大部分は所在各國に走りたるが、東漢の代、再び其の勢を恢復し、突厥國を興したり。隋唐の代、支那北部に雄威を振ひしもの即ち是れなり。

突厥國は、世々亞爾泰山アルタイの南に在りて柔然ゼンゼンに屬したりしも、支那南北朝の頃以來東は契丹を伐ち、西は柔然エラダリツキルギス、黠戛斯等の各國を侵略し、一時其の領土は、東、滿洲より西阿拉爾海アラールに連り、北は貝加爾湖バイガールを包みて、南は遠く青海を併せたるに、未だ幾な

匈奴の發
展

突厥の興
亡